

第 19 回 全国抑制廃止研究会 東京大会のご案内

大会テーマ 身体拘束とその弊害

期日 平成 30 年 2 月 24 日 (土) 午前 10 時 00 分～午後 5 時 00 分

会場 武蔵野大学有明キャンパス：東京都江東区有明 3 丁目 3-3

主催 特定非営利活動法人 全国抑制廃止研究会

後援 厚生労働省

定員 400 名

参加費 会員施設職員 3000 円 非会員 5000 円 (昼食付)

問い合わせ先：全国抑制廃止研究会事務局：Tel042-843-1777 Fax042-843-1701

メール yokuseihaishi@mitsurukai.com 担当 松岡、細川、細井

ご挨拶

今回、講師としてお越しいただくサベジ・パトリックさんの弟さんが今年の春に身体拘束によると思われる事故で亡くなられた。障害者施設でも身体拘束された状態で死亡している利用者が発見されている。厚生労働省も、身体拘束による事故を重く見ているのだろう。来年度に行われる介護報酬改定で身体拘束の減算を大きくする方針を打ち出しているようだ。

抑制をしないと云うのは簡単であるが、それを現場で実現することはそれほど簡単なことではない。同じ職場で働いていても、抑制への意識の違いが業務に現れる。常に患者さん、利用者さんの立場を尊重し思いやることができれば、抑制はもちろんのこと不適切ケアも目に見えて減少するだろう。ではどのようにして職員に意識付けを行うのか。それには、身体拘束がどのような弊害を招くのか、しっかり理解してもらうことが必要だと思う。先に述べたサベジさんの弟さんは、身体拘束により亡くなられている。抑制は、利用者さんの死を招くものであるのだ。

今大会のテーマは「身体拘束とその弊害」とした。亡くなられたサベジさんのお兄さんや、認知症の第一人者である朝田隆先生らをお招きして、テーマに沿ったお話を伺うことになっており、間違いなく、内容の濃い大会になるだろう。今回、受講者がこの大会で学んだことを施設に持ち帰り、実践的に身体拘束廃止に取り組んでもらえることを願っている。

平成 29 (2017) 年 12 月 10 日

特定非営利活動法人 全国抑制廃止研究会

理事長 吉岡 充

第19回 全国抑制廃止研究会 東京大会 プログラム

開催日 平成30年2月24日(土) 午前10時00分～午後5時00分
会場 武蔵野大学有明キャンパス 東京都江東区有明3丁目3-3
主催 特定非営利活動法人 全国抑制廃止研究会
後援 厚生労働省
定員 400名
参加費 会員施設職員 3000円 非会員 5000円 (昼食付)

身体拘束とその弊害

2月24日(土)

- 10:00 開会式
開会挨拶および基調講演 全国抑制廃止研究会 理事長 吉岡充
- 10:30 全体講演Ⅰ 厚生労働省老健局高齢者支援課 認知症・高齢者虐待防止対策推進室
課長補佐 鶴嶋保明氏
- 11:00 全体講演Ⅱ 「抑制死の実例から学ばれること」
サベジ・パトリック氏
杏林大学保健学部作業療法学科教授 長谷川利夫先生
- 12:00 昼食
- 13:00 選択プログラム
- 1.分科会講演 「回復期リハビリ病棟での身体拘束廃止」
【講師】井口昭子氏(「多摩平の森の病院」総師長(東京))
 - 2.分科会講演 「高齢者虐待の実態とリスクマネジメント」
【講師】山本克司先生(修文大学 健康栄養学部 教授(愛知))
 - 3.分科会講演 「認知症高齢者への看護コミュニケーション」
【講師】山本由子先生(武蔵野大学通信教育部准教授、聖路加国際大学認知症認定看護師教育講師(東京))
 - 4.分科会講演 「高齢者サービスにおけるコミュニケーション
・接遇を振り返る ～スピーチロックに気づく～」
【講師】本多勇先生(武蔵野大学通信教育部教授、介護老人保健施設太郎支援相談員(東京))
 - 5.ワークショップ「自立支援と事故防止」
 - 6.ワークショップ「抑制廃止を実現させるためのトップの役割～チームのケア力・組織で取り組む1～」
 - 7.ワークショップ「不適切ケアの芽をチームで摘むには～チームのケア力・組織で取り組む2～」
- 16:00 全体講演Ⅲ 「認知症専門医から見た身体拘束とその弊害」
講師 メモリークリニックお茶の水理事長 朝田隆先生
- 17:00 閉会